（Webサービス系エンジニアのサンプル）

職 務 経 歴 書

20xx年xx月xx日現在

氏名　○○ ○○

■職務要約

株式会社○○○○○に入社後、約x年間、自社サービスのシステム開発に従事し、要件定義や設計などの上流工程から、開発やテストまでを一貫して担当しています。20xx年からは女性向け通販サイト新規構築のプロジェクトリーダーを担当。全体の進捗管理や、企画部門、営業部門との調整なども行いました。結果として、サイトリリース後約xカ月で検索順位x位にまで上昇させ、利用者数も目標のxxx％で達成できています。

■活かせる経験・知識・技術

・PHP、Javaのプログラミング

・約xx名規模のリーダー経験

・新規サイト構築の経験

■職務経歴

|  |
| --- |
| 20xx年xx月～現在　　株式会社○○○○○ |
| 事業内容：Webサービス開発・運営事業資本金：x千万円（20xx年xx月）　売上高：x億x千万円（20xx年xx月）従業員数：xxx人　上場：未上場 | 正社員として勤務 |
| 20xx年xx月～現在　／　女性向け通販サイトの開発 | 開発環境 | 規模 |
| 【プロジェクト概要】女性向け雑貨、洋服の販売、コンテンツやコラム配信などの通販サイトの新規構築。【担当フェーズ】要件定義、設計、開発、テスト、運用保守、進捗管理【業務内容】・ユーザーごとのおすすめ機能を実装・ターゲットに合わせたビジュアルの設計・突発的な改修にも対応できるように設計・サイト内検索機能の最適化・サーバ関連の運用【実績・取り組み】・サイトリリース後、約xカ月で検索順位x位に上昇。・リリース後の目標利用者数xxx％を達成。 | 【言語】PHPJavaScriptCSS【OS】Windows【DB】SQL ServerOracle【フレームワーク】Laravel | 全xx名リーダー |
| 20xx年xx月～20xx年xx月　／　会場予約サイトの改修 | 開発環境 | 規模 |
| 【プロジェクト概要】ユーザビリティと店舗情報管理の利便性を向上させるためのリニューアルを実施。【担当フェーズ】設計、開発、テスト、運用保守【業務内容】・予約状況のレスポンスを高速化させるためのUI設計・登録店舗側を考慮し、サイト経由ではない予約も一緒に管理できるようにデータを設計【実績・取り組み】・レスポンスの高速化など利便性が向上したことにより、リニューアル後の利用ユーザー数が前年比xx％増加。・登録店舗数もリニューアル後、xx％増加。 | 【言語】PHPJavaScript【OS】WindowsLinux【DB】SQL ServerOracle【フレームワーク】Laravel | 全xx名メンバー |

■テクニカルスキル

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 種類 | 使用期間 | レベル |
| OS | Windows | x年xカ月 | 環境設計・構築が可能 |
| Linux | x年xカ月 | 環境設計・構築が可能 |
| AIX | x年xカ月 | 環境設計・構築が可能 |
| 言語 | PHP | x年xカ月 | 最適なコード記述と、指示、改修が可能 |
| Java | x年xカ月 | 最適なコード記述と、指示、改修が可能 |
| JavaScript | x年xカ月 | 最適なコード記述と、指示、改修が可能 |
| CSS | x年xカ月 | 基本的なプログラミングが可能 |
| DB | SQL Server | x年xカ月 | 基本的な環境構築が可能 |
| Oracle | x年xカ月 | 基本的な環境構築が可能 |
| フレームワーク | Laravel | x年xカ月 | 基本的な環境構築が可能 |

■資格

|  |  |
| --- | --- |
| 普通自動車第一種運転免許 | 20xx年xx月取得 |
| 基本情報技術者試験 | 20xx年xx月合格 |
| 応用情報技術者試験 | 20xx年xx月合格 |

■自己PR

＜情報収集とメンバーの知識向上のための共有＞

日々のメルマガの購読やIT関連のセミナーへの参加により、最新技術やトレンドなどの情報を収集しています。休日も「TECH PLAY」といったエンジニア向けイベントに参加し、技術に関する知識や情報をキャッチアップ。また、吸収した内容をブログに定期的に投稿し、アウトプットすることで理解を深めています。社内においても、月に一度最新技術についての共有会を行うことで、メンバーの知識向上に役立ててきました。

＜サービス拡大のための開発力＞

サービスの稼働開始後も、ただ運用するだけではなく日々改善に取り組んでいます。サイト内でのユーザー行動を分析して課題を洗い出したり、実際に自分が利用してユーザー視点に立ってみたりすることで、ユーザーの利便性を向上。また、登録店舗やブランドにもメリットを感じてもらうため、忙しい店舗勤務の方のことを考えたシステムを設計することで付加価値を生み出し、登録店舗数の増加にもつなげています。

以上